

令和3年度 前期 自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

1 特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察(◇) 改善方策(◆)	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校や小中合同校舎の特色を生かした、小中一貫を目指した教育を行っている。 目標値：教職員、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇教職員、保護者、地域ともに高い評価を得ることができている。教職員の3が多いのは、小中合同校舎での教育活動で生活しており、お互いの活動が分かりやすい反面、小中一貫を目指した教育とは言っているが、その系統性が明確でなかったり、十分でないと感じていたりする点が考えられる。 ◆へき地教育研究大会に向けて、小中合同の行事や児童会・生徒会の交流活動の機会を増やすよう、相互の交流を図る計画を立てていく。	教職員1	A	100	20	80	0	0
				保護者1	A	100	78	22	0	0
				地域1	A	100	62	38	0	0
ふるさと教育	地域の教育力を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇概ね高い評価を受けているが、教職員で2の評価があり、地域も3の評価が多い。総合的な学習の時間を中心に、地域についての学習を進めているが、コロナの影響により、ふるさと学習について、予定された活動が十分できなかった。地域の教育力を生かす外部講師等も招くことができなかった。 ◆総合的な学習の時間のカリキュラムを洗い出し、他教科との連携を見直すカリキュラムマネジメントを進めていく。また、学校運営協議会を利用して、地域の人材を掘り起こし、新たに人材バンクを作成することで、学校と地域の連携を密にしていきたい。	教職員2	B	80	20	60	20	0
				児童6	A	100	67	33	0	0
				保護者2	A	100	67	33	0	0
				地域2	A	100	25	75	0	0
家庭・地域との連携	各種便りやホームページ等を通して、情報発信に努めている。 目標値：教職員、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇学級・学校だよりを定期的に発信し、ホームページを毎日更新し、学校の情報を相互補完しながら発信できていることが高評価につながったと考えられる。 ◆課題となっているホームページの発信の役割分担に向けた研修を行いたい。また、ペーパーレスを念頭に置いた情報発信の方法についても検討していきたい。	教職員3	A	100	100	0	0	0
				保護者14	A	100	78	22	0	0
				地域7	A	100	92	8	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ 地域の人材は豊富なので、コロナ収束後はふるさと学習など地域の教育力を生かしてほしい。 ○ いろいろな面で地域交流や活動の範囲が限られる中で学校だよりやホームページで子供たちの活躍を知り感心している。 ○ 異学年の教え合いや、ふるさと学習の発表会の実施など児童数が少ないデメリットをメリットに変えるアイデアを出し合って交流活動を進めやすいのではないかと思います。 ○ ジュニアの結果もホームページに掲載してほしい。	学校の対応	○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、従来の活動ができにくい状況ではあるが、できないことを嘆くのではなく、できることを見つけて、工夫を加えて取り組んでいく。 ○ へき地教育研究会の開催に向けて、授業等の学習面と、総合的な学習を中心とした地域とのつながりに重点を置いて活動を進めていく。授業では、小規模校のデメリットをメリットに変える取組についてICTの活用を中心に研修を進めていく。地域とのつながりについては、人材バンクを作成に取り組み、地域人材を活用した授業を計画したり、防災学習会など地域も巻き込んだ活動を進めたりしていく。 ○ 今後も、子供たちの様子やがんばりを学校だよりやホームページを使って、発信していく。							

2 確かな学力の定着と向上

基礎学力の定着	「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇いずれもA評価になっているが、児童の評価と教職員の4と3の評価の割合の違いは、教師と児童の目標値の違いから生じたのではないと思われる。 ◆授業改善はもちろん、ささなじゅく・ドリルパーク等を上手に利用して、基礎・基本の更なる徹底を図る。また、教師と児童の目標の共有化を図るために4は単元テスト90%以上、3は80%以上というように目標値を設定して、振り返りをさせるようにする。	教職員4	A	100	0	100	0	0
				児童2	A	100	89	11	0	0
				保護者3	A	100	44	56	0	0
授業改善	表現力・思考力を身に付ける授業実践に努めている。 目標値：教職員、児童生徒の85%以上が肯定	A	◇授業では、対話を意識した学習活動を設定してきたが、1学期は1人1台端末の活用に重点を置いたため、ICTの指導に時間を割くことが多くなってしまった。 ◆2学期からは、ICTを活用した対話はもちろんであるが、従来の対話による課題解決にも力を入れて授業を行っていく。	教職員5	A	100	0	100	0	0
				児童7	A	100	56	44	0	0
家庭学習の定着	家庭学習の習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の80%以上が肯定 低学年：30分以上 中学年：40分以上 高学年：60分以上	A	◇概ね高評価ではあるが、児童1名が、2の評価を付けている。宿題のチェックは日々行っているが家庭学習の時間についてはマスターウィーク以外に行っていなかったため、タイムリーな指導ができなかった。 ◆児童自身が家庭学習の時間に目を向け、意識して取り組むことができるように、マスターウィークの時だけでなく計画帳に家庭学習の時間を記入させて、家庭学習の習慣付けを図る。また、これらの取組を学校だよりや学級だよりでも知らせていることで、今まで以上に家庭との連携を図る。	教職員6	A	100	25	75	0	0
				児童13	B	89	67	22	11	0
				保護者4	A	100	44	56	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ 基礎学力の定着や家庭学習の定着の評価もよく感心している。	学校の対応	○ 授業においては、デジタル教科書やICT機器を活用することで、学習内容の理解だけでなく、理由や根拠を明確にした対話的な学習を進めていく。また、定期的に行うささなじゅく(補充学習)の時間を利用して、個に応じた学習を進め、基礎・基本の定着を図る。 ○ 家庭学習の習慣化について、家庭学習の時間を記録したり、1日の過ごし方を記録したりと生活のリズムを可視化することで、自分の生活を振り返らせるようにする。							

3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を中心として、自他を思いやる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇道徳科や学級活動等の授業を中心に、相手の立場を考えた言動をとることができるよう、指導を継続してきた。「いいとこ見つけ」を様々なパターンで継続することも児童の自尊感情の育成につながり、高い評価になっていると思われる。 ◆今後も、教職員は、真剣に考え、伝え合い、自分の生き方に生かそうとする道徳科の授業と評価についての研修を深めていく。「いいとこ見つけ」などの記録を残し、児童の人権意識を高めていくことにも生かしていきたい。また、身近なニュースや豪雨災害などの具体的実践事例からも、自他の生命を大切にすることを学ばせたい。	教職員7	A	100	50	50	0	0
				児童5	A	100	100	0	0	0
				保護者9	A	100	89	11	0	0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域住民の90%以上が肯定	B	◇児童、地域、保護者の評価は高くなっている。しかし、決まった場所以外での挨拶にはまだ課題が残る。また、返事についても、やや小さかったり、返ってこなかったりすることがあるために、教職員の評価が低くなっている。 ◆2学期以降も、教師が率先して行う姿勢を見せながら、機会をとらえて今以上に気持ちのよい挨拶ができるように継続指導をしていく。返事については、人の話を聞くことの大切さと合わせて指導し、気持ちのよい返事を定着させるようにする。	教職員8	C	60	20	40	40	0
				児童8	A	100	67	33	0	0
				保護者6	A	100	44	56	0	0
				地域3	A	100	50	50	0	0
後始末運動の推進	使用した物をきちんと片付ける習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の80%以上が肯定	B	◇昨年度から重点的に指導を継続してきた結果、児童、教職員ともに意識が高まり、高い評価につながってきた。しかし、保護者の評価が低いことから、習慣化しているとは言い難い。 ◆片付けが習慣化することにより、必要なものがすぐに使えたり、物を大切にしたりすることにつながることに触れながら、家庭とも連携を図り、今後も目を離さずに継続して指導をしていく。児童への意識付けをしていくために、チェック表なども活用しながら改善を図っていききたい。	教職員9	B	80	20	60	20	0
				児童11	A	100	67	33	0	0
				保護者8	C	78	0	78	22	0
健康な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇概ね良い評価である。毎月実施しているマスターウイークの調査でも朝食、早起きはほぼ達成できているが、早寝については達成率が低い。 ◆マスターウイークを今後も継続して実施し、児童の実態把握に努め、保健だより等で健康な生活習慣の確立を図る。	教職員10	A	100	40	60	0	0
				児童14	A	100	67	33	0	0
				保護者12	A	100	33	67	0	0
体力づくりの推進	体育の授業や部活動、「えひめITスタジアム」への参加等により、体力・運動能力が向上している。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定 ☆「えひめITスタジアム」への登録が2週間に1回以上	A	◇社会体育の取組もあり、新体力テストでもA判定の児童が増加した。また、体育の授業での一輪車やなわとびの取組が、授業だけでなく、業間、休み時間などでの児童の活動として定着してきた。 ◆今後「えひめITスタジアム」の取組に力を入れ、運動が苦手な児童も含めた活動により、体力の底上げを図っていききたい。	教職員11	A	100	40	60	0	0
				児童9	A	100	89	11	0	0
				保護者11	A	100	33	67	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ いいとこを見つけることは親でも難しいと感じることがある。多様な意見が受け入れられることはよいことだと思う。 ○ 義務教育期間は元気な挨拶ができるのに、高校生になると継続しないのが残念である。 ○ 後片付けの習慣は社会に出ても必要なので、継続することが大切である。	学校の対応	○ 相手を思いやる気持ちの第一歩が、挨拶であり返事であることから、思いが伝えられる挨拶の実践を、教師が率先して行い、子供たちにあるべき姿を示す。そうして、機械的に声を出すのではなく、相手を意識した挨拶、返事を励行する。 ○ ICT機器の利用に伴い、机上の整頓が必要となってきた。今後、天板拡張器具を購入してもらったが、机上だけでなく、机の中、ロッカーと本来あるべき場所にあるべきものがあるか、チェック表等活用しながら、意識付けを図っていく。							

4 健全育成の推進

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育っている。 目標値:教職員、児童生徒の90%以上が肯定	A	◇児童、教職員ともに高い評価を得た。 ◆善悪の判断がきちんとできる児童の育成を目指し、これまで通り、教職員は指導を継続していく。教育活動全般を通してあらゆる機会を捉えて指導するのはもちろんのこと、模範的な児童を褒め、規範意識を高めていきたい。	教職員12	A	100	20	80	0	0
				児童10	A	100	89	11	0	0
				保護者7	A	100	22	78	0	0
個に応じた指導の充実	一人一人の教育的ニーズに応じ、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。 目標値:教職員の90%以上が肯定	A	◇日頃からきめ細かな指導を心掛けていることが表れている。 ◆今後も全教職員で児童一人一人を見守りながらその場その場で適切な指導、支援をする。また、今まで以上に情報交換及び共通理解を図っていく。	教職員13	A	100	80	20	0	0
生徒指導の充実	いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。 目標値:教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇毎月実施している「なかよしアンケート」やそれを踏まえての教育相談がきちんと実施されていること、教職員がタイムリーな指導、支援を行った結果が高評価につながっている。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」及び教育相談を実施し、児童の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。保護者や地域に対しては、ホームページによる発信だけでなく、各種会合で学校の取組や児童の様子等について、積極的に公開していく。	教職員14	A	100	100	0	0	0
				児童4	A	100	89	11	0	0
				保護者10	A	100	56	44	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ きまりやマナーを守らない大人が多い中、自分で判断して行動できることが大切だと思う。 ○ 今後いじめ等の兆候が見られた場合、学校の対応や地域がどのようにかかわって対応すればよいかお聞かせいただければと思う。	学校の対応	○ 全校での活動や小中合同の活動を計画的に実施する。少ない人数ではあるが、多様な年齢構成での活動を行うことで、それぞれの役割や取るべき行動について学ばせる。また、それらの活動を通して決まりやルールを尊重する態度を育成したり、ともに認め合い学び合う集団作りに取り組んだりする。 ○ 児童の様子について、アンケートや教育相談、小中で連携した視点でとらえ、いじめの未然防止を心掛ける。ホームページにも掲載している「いじめ防止基本方針」についても再度周知していきたい。							

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。 目標値:教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇今年度は、地震、不審者等の避難訓練や引き渡し訓練も実施することができた。2学期以降も砂防学習会や起震車体験など防災教育を進めていきたい。 ◆児童の学習を、児童を通して家庭に発信していけるようにすることで、家庭の防災意識を高め、学校運営協議会を中心に地域での防災学習も計画し、地域全体の防災意識を高めるきっかけを作っていきたい。 ◆新しい生活様式の定着のための意識付けを継続させる。また、各種避難訓練の計画的な実施により、様々なケースを想定した行動を身に付けさせたい。	教職員16	A	100	60	40	0	0
				児童12	A	100	100	0	0	0
				保護者13	A	100	67	33	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	学力向上、生徒指導等において研修や自己研鑽に努めている。 目標値:教職員の90%以上が肯定	A	◇GIGAスクールにより1人1台端末を使用するようになった。児童の高い適応力により、評価も高くなっている。 ◆授業の中でも活用場面や活用するアプリについての情報交換や研修を適宜行い、効果的な活用について共通理解を図れるようにしたい。 ◆引き続き、新学習指導要領に対応した指導の研究を行いながら、「へき地教育研究会」に向けた研修を中学校と足並みをそろえて行っていく。	教職員17	A	100	40	60	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ 自分で安全に行動する行動力や判断力を身に付けることが大事だと思う。	学校の対応	○ 様々な想定での避難訓練を繰り返し実施し、児童に、自分の命は自分で守り切るための意識付けを行っていく。また、児童がそれらの体験を家庭に伝えることで、保護者の防災意識の高揚を図りたい。さらに11月に地域も交えた防災学習会を実施し、防災意識の高まりを地域全体に広げていきたい。 ○ 授業におけるICT機器の活用について、校内だけでなく、他校とも情報交換を行い、効果的な活用法についての研修を続ける。							